

日本児童養護実践学会 第2回総会議事録

日 時：平成22年2月14日（土）午前10時00分～午後12時00分

場 所：目白大学 10号館9階大会議室

出席者：会員55名

1. 会長挨拶

日本児童養護実践学会会長高橋利一より、ご挨拶を頂き総会開始宣言とした。

2. 来賓挨拶

（財）資生堂社会福祉事業財団 常務理事吉井様よりご挨拶頂いた。

3. 議長選出

議長に東京恵明学園の曾田等氏が選出され、大半の参加者の拍手によって承認された。議事に入る前に、式次第の訂正を下記の通りとした。

第一号議案・第二号議案はそのまま、第三号議案 事業報告、会計系報告の質疑及び承認を平成22年度事業計画とし、第四号議案はそのまま、第五号議案はなしとした。

4. 議事

【第一号議案】 平成21年度事業報告（案）

日本児童養護実践学会副会長 中山正雄氏より、資料「日本児童養護実践学会 平成21年度事業報告（案）」に沿って説明が行われた。

【第二号議案】 平成21年度会計報告（案）

引き続き、事務局であるシムウェルマン株式会社飯村氏より、資料に沿って説明が行われたのち、質疑応答が行われた。

[質疑]

- ・会員数、賛助会員、関係機関など、どこの組織と係りを持っているのか情報を公開していただければ、会員獲得の動き方も変わるので、情報を出してほしい。

[回答] 中山氏⇒賛助会員は、現在3団体、関係先団体は今大会チラシに載っている後援団体となる。

[質疑]

- ・他の児童養護施設団体との連携という部分においての関係団体と、後援団体とはイコールになる場合もあるが、もっと別に地方などの各関係団体などにもきちんと

と関係を結んでおく必要があるのではないか。

〔回答〕中山氏⇒ニュースレター等に載せて、お知らせしていくこととする。

以上2点の質問が出て、副会長中山氏より回答を頂いた。

第一号議案及び第二号議案は、採択にかけられ、参加者多数の拍手をもって承認された。

【第三号議案】平成22年度事業計画（案）

日本児童養護実践学会副会長 中山正雄氏より、資料「日本児童養護実践学会 平成22年度事業計画書（案）」に沿って説明が行われた。

【第四号議案】平成22年度予算書の提案

引き続き、引き続き、事務局であるシムウェルマン株式会社飯村氏より、資料に沿って説明が行われたのち、質疑応答が行われた。

〔質疑〕

・学会誌の進め方で規程や投稿方法、査読委員会などどのように考えているのか。

〔回答〕加藤氏⇒投稿規程については、慎重に審議しているところで、決定次第学会ホームページ上にて掲載する予定。査読については、業績につながるという意味できちっと査読を受けた論文だからと認められるということは考えていない。問題は個人情報などの観点から、不適切な表現があってはいけないので、編集委員会にて対応をすることとしている。

〔質疑〕

・①事業計画の5) 他の児童養護関係団体との連携とあるが、もっと明確にしておく必要があると思われる。②現場の職員からすると「学会」とは社協の研修に行くような感覚ではないので、学会の方から現場職員に歩み寄っていくべきではないか。③予算案で通信費の備考欄に全国の児童養護施設に送付とあるが、何を送付するのか明確にし、15万の根拠を明確にすべき。

〔回答〕中山氏⇒①まだ計画を立てていないので、役員会にて指摘どおり決めていきたい。②その通りと考えており、これも計画中である。決定次第お知らせしていく予定。③何件でいくらという計算はしていない。

〔質疑〕

・総会であれば改めて会長が〇〇、役職が誰など、会員名簿など明確にするべき。実践学会であるので職員にも勧めたいと思っているが、事業計画案3)の基幹職員研修等に、学会として取り組むとはどういうことか。

〔回答〕中山氏⇒学会としてどのような研修が役に立つのか、考え計画してかなければいけないのではないかと考えている。名簿の公開については、失念していた。

〔質疑〕

・会員の拡大で第3回大会までに200名の会員を得るとあるがどうか。

〔回答〕議長⇒会員全員で会員獲得にご協力をお願いしたい。

以上4点の質疑が出て、各役員より回答を頂いた。


第三号議案及び第四号議案は、採択にかけられ、参加者多数の拍手をもって承認された。

5. 閉会の挨拶

副会長中山氏よりご挨拶いただいた。

(文責：事務局)

議事録署名

千葉 英明 

横堀 昌子 
